

# 観光まちづくりレポート

## 地域の活性化、観光振興を進めるとともに、広域的な連携での観光事業を展開

～奈良県生駒郡斑鳩町および生駒郡商工会広域協議会（斑鳩町、平群町、三郷町、安堵町の各商工会）～

ユネスコの世界遺産に登録された法隆寺、法起寺をはじめ、数多くの歴史的価値の高い建築物を有する奈良県生駒郡斑鳩町は、日本を代表する観光地のひとつとして多くの観光客が訪れ、賑わいをみせている。しかし近年、観光客の減少や地元商工業の低迷など、地域経済に衰退の影がみられるようになってきた。

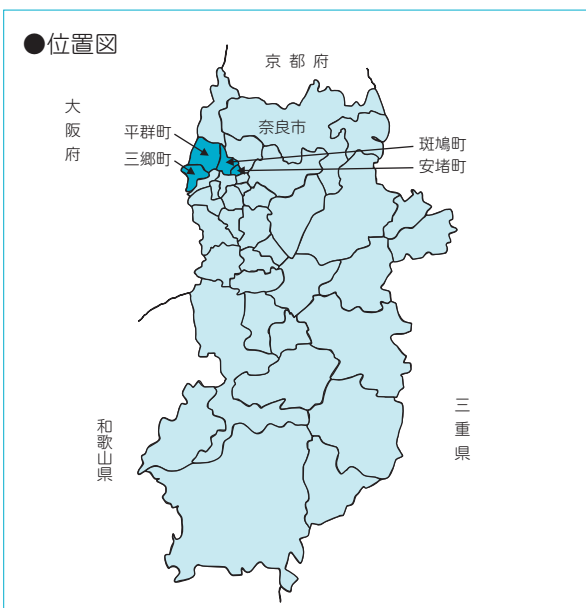
そういったなか斑鳩町では、昭和54年から斑鳩町商工まつり実行委員会と斑鳩町商工会青年部が中心となって「斑鳩町商工まつり」を企画・運営しており、同まつりは地元の産業振興に一役買っている。

ただ、今後さらに地域の発展を図るためには観光産業の活性化を考えていく必要がある。その場合、斑鳩町が単独で行うよりも、行政区域を越えたエリアでの連携が効果的であると考えられる。生駒郡では4つの町（斑鳩町、平群町、三郷町、安堵町）の各商工会が連携して生駒郡商工会広域協議会を結成。同協議会では広域的に連携した新たな観光事業などを展開している。

### 生駒郡4町（斑鳩町、平群町、三郷町、安堵町）の沿革

奈良県生駒郡は、奈良盆地の西南に位置し、斑鳩町、平群町、三郷町、安堵町の4町からなる。人口は78,355人で、面積51.3km<sup>2</sup>、人口密度1,530人/km<sup>2</sup>（2011年7月1日、推計人口）である。

また、斑鳩町は、世界遺産法隆寺に代表される歴史と文化を持つまちであり、また、高度経済成長期以降は、大阪のベッドタウンとして人口が増加し、都市化が進んだ。



### 斑鳩町商工まつりの変遷

「斑鳩町商工まつり」は昭和54年に始まった地域の行事のひとつで、実行委員会と斑鳩町商工会青年部が中心となり企画・運営している。今年、31回目という歴史を数えるが、始まった頃の内容は、カラオケ、野菜や地元物産の即売などといったもので、まつりの参加者に買い物などで楽しんでもらい、地元商工業者や商店街が日ごろの謝恩を込めて、皆様に利益を還元するといった趣旨のものだった。しかし数十年前から、社会情勢や産業構造の変化に伴って消費が低迷し、地元の商工業者に危機感がみられるようになっていった。そこで主催者である商工会青年部では新たな展開を模索・検討して、商工まつりの改革を進めていった。



斑鳩町商工まつりでの和太鼓演奏風景

今年の商工まつりの内容をみると、広く情報提供を行う場として活用され、大手化粧品メーカー、損保会社、地元の金融機関、企業や県内の大学、自衛隊などがブースやパネルを出店している。また、ソーランダンスや和太鼓など地元小学生による日頃の練習の成果を発表する場としての役割も担っている。

現在の斑鳩町商工まつりは、行政（斑鳩町）の協力も得ながら進められ、運営には 100 名規模のボランティアが参加し、町をあげての一大イベントとして定着、地域の活性化に大きく貢献している。

商工まつりへの参加者は斑鳩町からが中心だが、周辺の市町村からも数多く訪れ、今年（7 月 23 日）は 5,000 人を数えた。斑鳩町商工会青年部前部長の井上雅仁氏は、「斑鳩町商工まつりは、打ち上げ花火や盆踊りなどの夏祭りの存在にとどまるのではなく、『地元商工業の活性化』と『地元の子供たちに心の故郷を創出するまつり』という 2 本の柱を持っています。もちろん、今年に限っては加えて東日本大震災の復興チャリティーオークションも行っていましたが」と語る。



会場では花火も打ち上げられ多くの人々が訪れた

これからの斑鳩町商工まつりは「学び」を基本コンセプトにと考えている。主催する斑鳩町商工会青年部では、「これからは『町民の誇り』を築

きあげる場としての機能を持たせたい。そのためには、講演会や勉強会などを積極的に開催して、参加者に『学び』の場を提供していきたい。そうすることで地域に暮らす人が地元のよさを発見したり、地域発展の意識を高めたりしてもらえれば」と 2~3 年先の目標を掲げている。

### 生駒郡商工会広域協議会の動き

生駒郡商工会広域協議会は、平成 16 年 6 月、生駒郡に存在する 4 つの町（斑鳩町、平群町、三郷町、安堵町）の商工会で組織され、斑鳩町商工会館内に事務局を置いている。生駒郡の 4 つの町が連携すれば、各商工会で不足している人的資源、物的資源の補完などいろいろな面で互いの弱みを補い、強みを生かすことができるとの狙いからだ。

斑鳩町はユネスコの世界遺産に登録された法隆寺、法起寺をはじめ、数多くの歴史的価値の高い建築物を有する日本を代表する観光地のひとつとして、年間 100 万人近くの観光客が訪れる。しかし、観光客の多くが日帰り客であるうえに、町内に大きな宿泊施設がないこともあって、訪れる観光客はいわゆる「通過型観光」が中心であり、観光客をいかにして地元滞留させるかが喫緊の課題であった。そこで、その課題解消の使命を託されたのが生駒郡商工会広域協議会なのである。

生駒郡商工会広域協議会ではこれまで、新たな観光資源の発掘と観光ルート策定のためのアンケート調査などによって、今後の方向性を模索してきた。平成 18 年には、大手旅行エージェント等が運営する、観光関連のテーマ検索型トラベル WEB サイトを利用した観光客誘客事業を展開してきた。また、平成 22 年、生駒郡地域専用の観光 WEB ページ「奈良／法隆寺&信貴山周辺 いにしへの風景に出会う旅」を作り、上記 WEB サイトと連携させることで、地域の観光情報発信力を一層高めていく仕組みを完成させた。当該 WEB による誘客数は、累計で 1,500 人を数え、地域に大きな経済効果をもたらしている。



また、WEB と合わせて、生駒郡 4 町の観光地、宿泊施設、食事処などを掲載した紙媒体の観光冊子「生駒郡 PASSPORT」を平成 22 年に発行（当初発行部数：12,000 部）し、商工会や観光案内所などで無料配布している。



観光案内小冊子「生駒郡 PASSPORT」

## なら観光ビジネスカレッジ 斑鳩

平成 23 年 2 月には「なら観光ビジネスカレッジ 斑鳩」基礎編を開催し、100 名以上の参加者を得た。同カレッジは、奈良県商工会連合会、財団

法人奈良県中小企業支援センター、斑鳩町役場との連携により実施された。その目的は、農商工の事業者や観光ボランティア・住民に地域振興としての観光ビジネスのあり方を伝え、その後それを理解した関係者たちが中心になって、産業団体、個人事業者、官民などの垣根を越えた広域観光ビジネスネットワーク「ニューツーリズム協議会」の設立準備をはかることであった。そして、宿泊や交通、飲食など地元業者の連携を図り、旅行エージェントや旅行者への情報発信を地域観光ビジョンと併せて発信できる体制の整備を目指すというものである。

同カレッジは、その名の通り「観光をビジネス」として捉えている。基本的なコンセプトは 3 つ。

1 つ目は、地域の農業・商業・工業が連携して観光ビジネスを展開していくという点である。これまでは「寺社を中心とした」観光資源に頼っていたが、これからは地元の農商工業者が互いに連携して観光ビジネスを創っていくことが必要であると考えている。

2 つ目は、法隆寺だけでなく斑鳩町全体の豊富な観光資源を効果的に生かして、観光振興につなげていくことである。

3 つ目は、従来の周遊型の観光にとらわれず、写経や法話といった「学びのある観光」や「体験型の観光」を交えた観光プログラムを開発していくことである。

今年度（平成 23 年度）は、ビジネスカレッジ基礎編の内容を踏まえたうえ、「なら観光ビジネスカレッジ 斑鳩・信貴」としてエリアを斑鳩および信貴にまで広域にして開催。8 月 22 日から 12 月 10 日までの日程で計 8 回のカリキュラムが組まれている。

同カレッジでは、サービス産業をはじめ、地域を支えてきた一次産業やものづくり産業、また趣味の技術を活かしたい人やさらには建設業など異業種からの新規参入まで幅広い事業者が対象となる。観光ビジネスの基本から特産品の開発、地産

地消と食文化など地域特性を活かした観光交流の進め方などについて地域の観光ビジョンに沿ったカリキュラムで講義が行われる。講師には、大手旅行エージェント、着地型観光\*振興のパイオニア、観光カリスマ等を招へいし、農商工業者の体験プログラムの企画商品化、観光客を対象としたプロモーション及び誘客等、各事業所の連携方法など受け入れ側へのノウハウの提供と各事業所のマーケティング力の強化をはかることを目的としている。

※着地型観光…目的地（到着地）側の旅行者等が企画する旅行。



「なら観光ビジネスカレッジ斑鳩・信貴」のチラシ

## インバウンド観光受入の検討も進む

生駒郡商工会広域協議会では、地域の観光振興の一環としてインバウンド観光の推進にも注力している。奈良県へのインバウンド観光については斑鳩・信貴エリア単独ではなく、桜井・明日香など県内観光地への周遊のニーズも考えられることから、桜井・明日香との合同のモニターツアーが計画されている。具体的には、シンガポールの教育旅行のエージェントを招へいし、県内の観光地域を売り込み、シンガポールからのインバウンド観光客の取り込みをはかることを検討している。同協議会では、ターゲットをシンガポールに絞った理由を以下のように考えている。

シンガポールは国土が比較的狭いことから、資源は『人』という考えかたが浸透している。行政

主導の教育においても見識を広げるため、10歳から海外への留学や教育渡航を推奨している。以上のような考え方や教育理念に基づいていることから、教育にかかる客単価が他国と比べ高い。

## 今後に向けて

これまでは、斑鳩町を中心とする当該地域を訪れる観光客のほとんどが通過型の観光客であった。今後は、「法隆寺への教育旅行」、「信貴山への参拝」などの観光ニーズに対して、『学び』の観光商品や農工業事業者による体験型の新しいプログラムを付加していくことで、地域の発展が見込まれる。また、地域連携は、斑鳩町の観光にとって課題であった滞在型の観光にもプラス要因になると思われる。

同協議会では、「次年度以降もカレッジの開催を継続し、『着地型観光の商品』について学んでいくと同時に、事業展開を図る予定である。そのために、農商工事業者、関係団体、行政との連携を密にして、充実した組織基盤を確立させていきたい」と考えている。

今後、参加者や地域住民のなかに「学び」の精神を醸成していくことで、長年の歴史ある斑鳩町商工まつりをより一層充実させることや、さらには、生駒郡4町が、多様な面での連携を強めていくことは、4町地域における観光振興や地元の活性化にとって欠かせない視点となっている。

(丸尾 尚史)

### <連絡先>

#### ◆斑鳩町商工会事務局（斑鳩町商工まつり）

〒636-0153

奈良県生駒郡斑鳩町龍田南 1-3-49

TEL：0745-74-2500

#### ◆生駒郡商工会広域協議会（斑鳩町商工会内）

〒636-0153

奈良県生駒郡斑鳩町龍田南 1-3-49

TEL：0745-74-2564